

2016.10 Vol.9

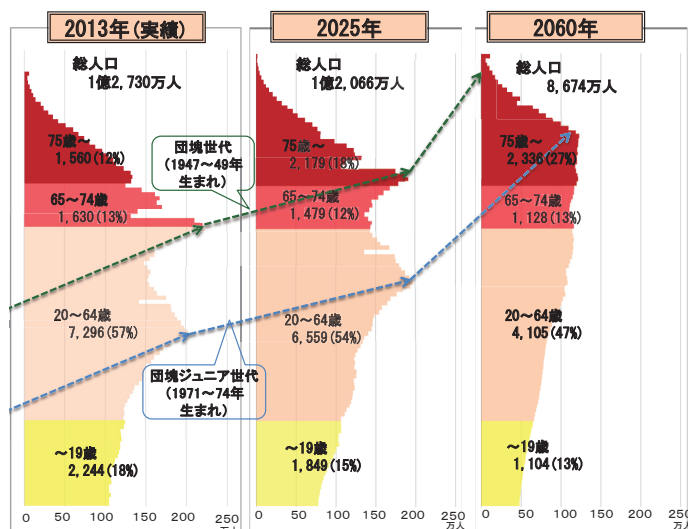
〈特集〉「寝室は別々に！」女性の要望強まる！ ～「定年後の夫婦の暮らし」についての意識調査から～

SPECIAL NUMBER

住環境研究所では、少子高齢化など我が国の社会構造が激しく変化する状況を受け、生活者の暮らしに関する意識の変化を敏感にとらえ、活力ある上質な住まいと住環境について研究と情報発信を行っています。今回は「定年後の夫婦の暮らし」についての意識調査を実施しました。55～69歳の男女（比率は1:1）550人（ただし、夫婦の意識、夫婦の寝室については既婚の方のみ回答）を対象にインターネットで調査したもので、2010年の調査との比較も行いました。この中で、「夫婦の寝室」の希望について聞いたところ、全体では2016年は「一緒派」が53.1%、「別々派」が46.9%と、やや一緒派が多い傾向になりました。ただ、2010年は一緒派が56.0%、別々派が44.0%となっていたから別々派が増えている状況です。ただ、女性はより強く「別々」を望む傾向にあり、「夫婦別々の寝室」を希望する人は36.7%（2010年26.0%）と10ポイント以上アップする状況となりました。これは、男性では16.8%（2010年14.9%）とほぼ同率です。寝室事情は夫婦の距離感をよく表すものですが、その視点で見ると定年世代では女性の男性に対する気持ちは離れつつあると言えるかもしれません。

さて、「定年後の暮らしについてどのような意識を持っているか」についても今回調査しました。その中で「社会とのつながりを持ち続けたい」と考えている人ほど、定年前に準備を始めていた（いる）という傾向が多いことが見えてきました。我が国では2012年に他の世代より圧倒

的に人口が多い団塊世代（1947年～49年生）の退職が始まり、2015年にはその世代が65歳以上の前期高齢者となり年金の全額が給付される年齢に達しました。また、2025年には団塊の世代が全て後期高齢者にあたる75歳以上となります。こうした状況は医療費や健康保険の負担増加、引いては国の財政負担軽減にもつながると考えられます。そうした状況を避けるためにも、人との交流や趣味、さらには運動などを通じた定年後の生活の充実、それによる自立の準備や努力が必要となるといえそうです。



(出所) 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所
「日本の将来推計人口(平成24年1月推計): 出生中位・死亡中位推計」
(各年10月1日現在人口)

1 適当な距離感が夫婦円満の秘訣!? 一人の時間を求める夫婦の姿

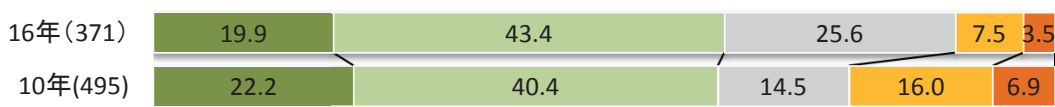
A:「夫婦といえども1人の時間がほしい、それでこそ仲良く暮らせる」、B:「会話があってこそわかり合える夫婦になる、夫婦共有の時間を持ちたい」のいずれかを選んでもらったところ、全体では「ほとんどA」「Aに近い」の合計は10年と比べて大きな変化がありませんが、「ほとんどB」「Bに近い」の合計については11.0%（10年22.9%）と大きく減少しているのが目に付きます。この傾向は、男女で同じ傾向です。

ただ、特徴的な傾向として、Aの「一人の時間を求める」傾向が強いのは、総じて女性であること。男性は「ほとんどA」「Aに近い」が56.0%（10年55.6%）であるのに対して、女性は72.2%（10年70.9%）と高い割合となっています。子育てを終えた女性は「ようやく自分の時間を持てる」と安堵し、より自立した暮らしを求めている状況がうかがえます。

1. 夫婦意識

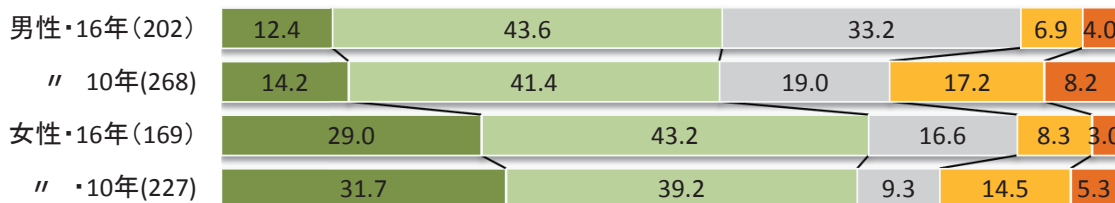
- (A) 夫婦といえども1人の時間が欲しい、それでこそ仲良く暮らせる
(B) 会話あってこそ分かり合える夫婦になる、夫婦共有の時間を多くもちたい

■ ほとんどA ■ Aに近い ■ どちらとも言えない ■ Bに近い ■ ほとんどB



■ ほとんどA ■ Aに近い ■ どちらとも言えない ■ Bに近い ■ ほとんどB

■ 性別



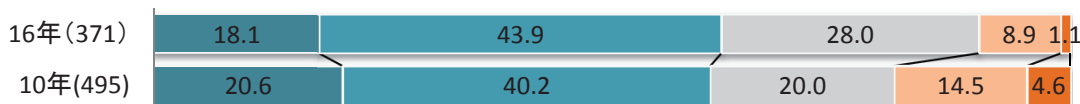
2 「趣味を夫婦一緒に」も男性の意欲が高く、女性は敬遠気味!?

A:「夫婦であっても個人を尊重すべき、趣味は別々に楽しみたい」、B:「夫婦で共通の趣味を持ち、一緒に楽しみたい」のいずれかを選んでもらったところ、全体では「ほとんどA」「Aに近い」の合計が62.0%（10年60.8%）となり10年とあまり変化はありませんでした。しかし、Bの合計については10.0%（10年19.1%）と大きく減少しています。この中で注目したいのが男性の変化。Aの合計は10年の19.0%から16年は9.9%に減少しています。男性もそろそろ夫婦生活における自立に目覚め始めたということでしょうか。

2. 夫婦の趣味

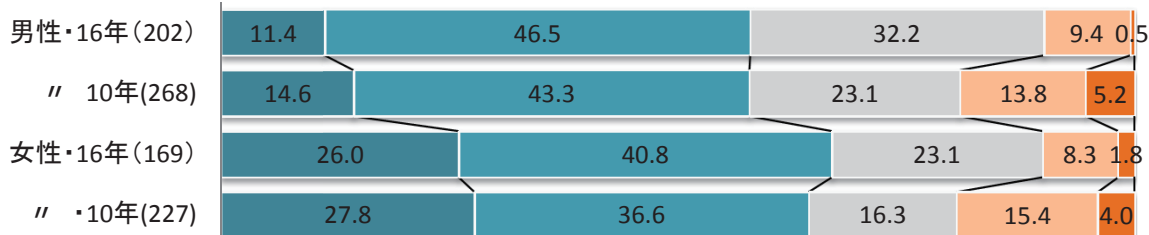
- (A) 夫婦であっても個人を尊重すべき、趣味は別々に楽しみたい
(B) 夫婦で共通の趣味を持ち、一緒に楽しみたい

■ ほとんどA ■ Aに近い ■ どちらとも言えない ■ Bに近い ■ ほとんどB



■ ほとんどA ■ Aに近い ■ どちらとも言えない ■ Bに近い ■ ほとんどB

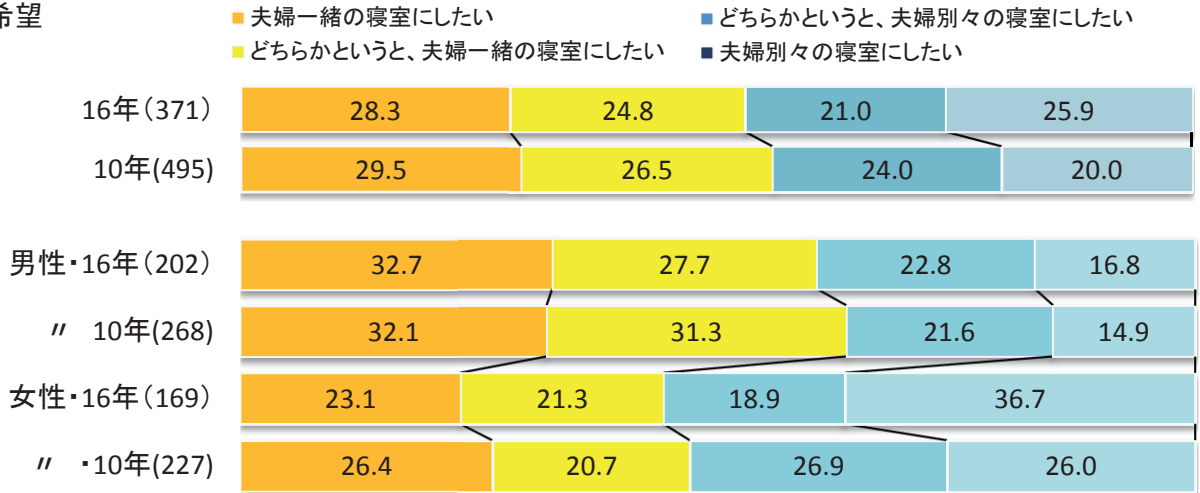
■ 性別



3 女性の「夫婦別寝」への希望がますます高まる

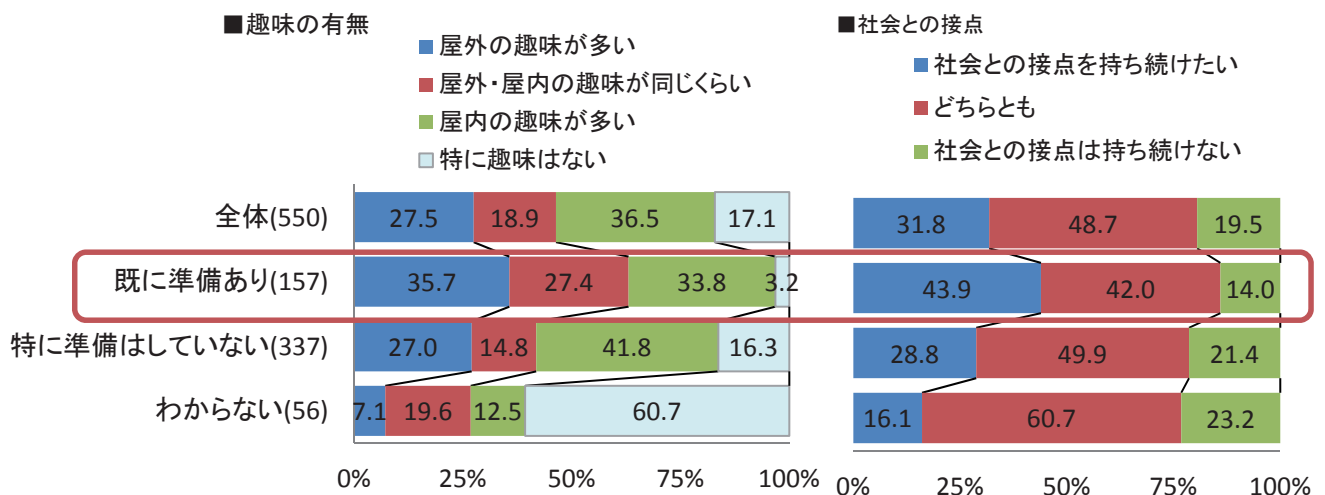
寝室のあり方についての希望を聞いたところ、「夫婦同寝」（「夫婦一緒にの寝室」「どちらかというと一緒にの寝室」の合計）が53.1%（10年56.0%）の一方、「夫婦別寝」（「どちらかという夫婦別々の寝室」「夫婦別々の寝室」の合計）は46.9%（10年44.0%）となりました。男女別にみると男性については10年と16年では大きな動きはありませんが、女性については16年が55.6%（10年52.9%）と、過半数が「夫婦別寝」を望む結果になりました。特に、より強い「夫婦別々の寝室」という意向が10年の26.0%から36.7%へと10ポイント以上上昇しているのが特徴的です。

3. 寝室の希望



4 準備をしている人ほど、定年後の暮らしが充実

定年後の準備の有無について聞いたところ、準備をしている人ほど趣味のある人が多く、また社会との接点を持ちたいと思う人が多くなっています。逆に定年後の準備について「わからない」（具体的なイメージが持てない）人は、趣味のない人が多くなっています。総じて社会との接点や、趣味活動に積極的な人ほど定年後の準備をしている人が多く、これらの積極的活動が定年後の自立や活動の活性化につながっているようすがうかがえます。



《研究員のコメント》

10年、16年比較では、夫婦と言えども1人の時間がほしいは6割で変化はありませんでした。この年代での意識としては、当たり前になりつつあるようです。10-16年での変化は、夫婦共通の時間を持ちたいが減少し、どちらとも言えないが増加していました。夫婦共有の時間を要望する人は減少していますが、どっち付かずの迷いの気持ちも見え隠れしている様子うかがえました。また、社会との接点、友人との交流、趣味を持っている人で、定年後の準備を始めている人が多く、趣味の充実感などが定年後の生活の活性化につながると考えます。（担当：嘉規）